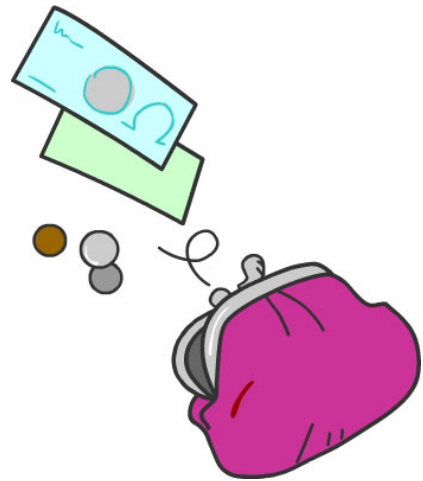


今、あなたのお財布の中には1円玉は何枚入っていますか？10円玉や100円玉はどうでしょう？もし5枚以上あるとしたら、それらは5円玉などにまとまっていた方が、お財布はふくらまないし、軽くなりますよね。どうしたらそのようになるのでしょうか？

今回は、端数合わせという問題です。これが上手にできると、お財布の中で硬貨が無駄にたまることなく、スマートな買い物ができるようになります。

コツは、下の位の数から合わせていくことです。1円、5円、10円、50円、……の順で硬貨の単位ごとに合わせていき、足りない場合は1つ上の単位にくり上げて考えるとわかりやすいです。図で整理しながら考えるとわかりやすいでしょう。



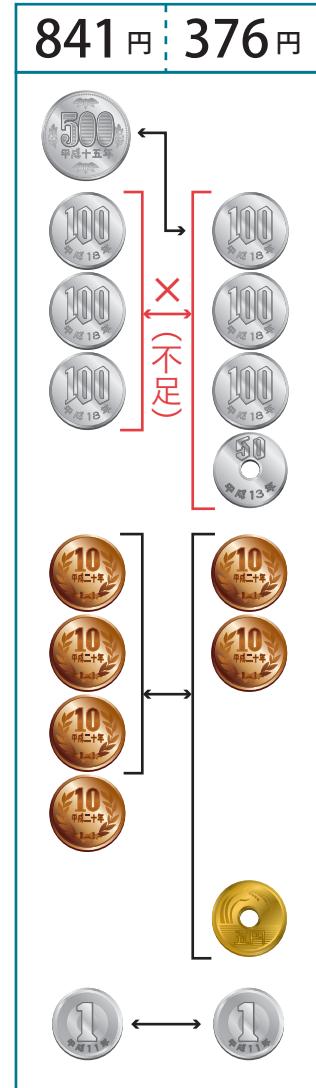
たとえばイでは、1円玉を1枚持っているので、これを出しておけばあとは5円以上の硬貨で支払いができます。

次の5円に対しては、5円玉は持っていませんから、10円以上の硬貨で支払うこととなります。10円玉での支払いはくり上がった5円の分と、20円があります。したがって、10円玉を3枚出すことにすれば、あとは50円以上の硬貨での支払いとなります。

ここまでの話をまとめると、代金の376円に対してまずは1円を出し、残り375円のうちの25円分については、30円を支払って5円のおつりを受け取るまで来ました。

代金の残りは350円となりますが、50円玉は持っていないので、100円玉での支払いを考えます。しかし、持っている100円玉では足りないので、もう1つくり上げて500円玉で支払えばよいということになります。

以上で、支払う金額は531円だとわかりました。



その他の問題も同様です。じっくりと考えてみてください。そして、日常生活の買い物でも、挑戦してみましよう。端数合わせがうまくいけば、お財布は軽くなって中身も確認しやすくなり、とても気持ちのよいものです。

[平成6年度出題]

**正解** ア 310円 イ 531円 ウ 1222円